令和８年８月６日

令和８年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原簿記ビジネス専門学校福岡校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園　大原簿記ビジネス専門学校福岡校 学校関係者評価委員会は、令和７年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

１．実施日時
令和８年８月６日（木）15時00分～15時50分

２．実施会場
大原学園福岡校　本館８階

３．学校関係者評価委員
①出席者
冨岡 美穂　氏　（冨岡美穂税理士事務所 所長）
森部 誠司　氏　（株式会社にしけい 福岡中央支社長）
長野 潤平　氏　（医療法人堺整形外科医院　事務部長）
真野 素行　氏　（社会福祉法人真和会 第２板付保育園 園長）
永椎 広典　氏　（ＧＭＯペパボ株式会社 執行役員 福岡支社長）
平田 武志　氏　（株式会社 Lab.751 HIROSHIMA　Branch Manager）
森　厚　氏　（上川端町四区自治会 自治会長）
②欠席者
長谷川 正志 氏　（社会医療法人青洲会グループ 本部 看介護局長）
吉竹 知恵美 氏　（イオン九州株式会社イオンショッパーズ福岡店長）

（事務局）
阿波谷 亮治　（大原学園福岡校 校長）
宮﨑 隆　（大原学園福岡校 課長）
作花 浩聡　（大原学園福岡校 課長）
瀬戸 孝一　（大原学園福岡校 課長）
家入 信典　（大原学園福岡校 課長）
川村 睦　（大原学園福岡校 課長補佐）
石井 祥子　（大原学園福岡校 課長補佐）

４．学校関係者評価報告

議事進行（大原学園福岡校 家入信典）

（１）冒頭挨拶（大原学園福岡校 校長 阿波谷亮治）

職業実践専門課程の趣旨説明、学校関係者評価委員会の位置づけ、昨今の専門学校を取り巻く外部環境に触れ、学校の運営状況について説明が行われた。

（２）令和7年度自己点検評価概要報告（大原学園福岡校 課長 家入信典）

令和7年度自己点検評価報告書に沿って説明が行われ、全般的に良好な結果である旨が報告された。

（３）重点項目に関する討議

重点目標 1（3-3　学生生活に関する支援）

3-3-2　学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	
評価の視点	定期的な健康診断の実施、結果のフォロー、健康管理に関する啓発活動など、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用しているか
現状認識と課題	毎年1回の健康診断を実施し、結果を学生へ配布している。要再検査等の該当者に対しては再受診の案内を行うなど、適切にフォローしている。 定期健康診断と日常の出席確認を組み合わせて、学生の健康状態を把握している。特段の大きな課題はないが、健康診断の実施時期、結果のフォロー及び心の健康を含む継続的な支援方法には検討の余地がある。 健康診断後のフォローを継続するとともに、健康管理やメンタルヘルスに関する啓発活動を充実させ、学生が自ら健康管理を行えるよう支援体制の強化を図る。
学校関係者の評価・提言	診断結果に応じた受診勧奨や個別面談などのフォローアップ体制を充実させることが望まれる。また、出席状況や欠席の増加などの変化を健康上の不調の兆候として捉え、必要に応じて学生相談室や医療機関等と連携する。また、定期的なメンタルチェック等、心の健康にも配慮した継続的な支援体制の整備を進めることが期待される。

重点目標 2（3-3　学生生活に関する支援）

3-4-2　正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	
評価の視点	自治体等が実施するボランティア活動を学生へ紹介し、学校内外で地域貢献や地域住民との交流につながる活動への参加を支援しているか。
現状認識と課題	学生が授業外で社会と関わり、地域貢献を経験できる機会を設けている。 活動に参加する学生が限られており、継続的な課外活動や学生の自主的な企画を促進する支援は十分とはいえない。

学校関係者の評価・提言	学生の自主性や主体性を育み、豊かな人間性や協調性を養うため、課外活動や学生主体の企画・交流活動を行いやすい環境の整備と支援の充実が望まれる。また、学生のニーズや意見を把握し、活動場所の確保、必要な情報提供、教職員による助言など、活動内容に応じた支援を行うことで、学生の自主的な活動の活性化と充実につなげることが期待される。

5．学校関係者委員会総括

大原簿記ビジネス専門学校福岡校の令和７年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営については、意思決定の仕組みが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定や各種研修制度の整備を通じて、有為な人材の育成が図られていると考える。さらに、各種検定試験の合格実績や就職実績においても、一定水準の教育成果を上げている。学生生活においては、さまざまな場面で学生とのコミュニケーションを図り、一人ひとりの長所や特性を踏まえた指導を行っていることが、教育成果に繋がっているものと考えられる。学習面の相談にとどまらず、日常生活における悩みについても、教員や保護者等と情報を共有し、解決に向けて連携するとともに、学生を受け入れる学校側や企業側においても、柔軟に対応していく必要がある。

今後も、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等でいただいた意見を教育活動に反映させ、教育の質および学生満足度の向上に努めていくことを確認した。また、今後も学校関係者一同が客観的な視点からさまざまな提言を行うことにより、大原簿記ビジネス専門学校福岡校が社会から一層の信頼を得られるよう、支援していきたいと考えている。

以上